



特定非営利活動法人 なんとなくのにお 通信

URL <http://www.nantonakuno.net/>

Mail info@nantonakuno.net

就職に向けた準備の場、 就労移行支援事業所を見学

6名で、宇都宮市にある就労移行支援事業所「ディンクル」、「ウェルビー」を見学しました。(2月4日・火曜日)

軽作業(餃子タレの梱包、ヨシケイ緩衝材を拭き取りリサイクルする作業、機械部品の取り付けや組み立てなど)を神妙な顔つきで見学。「就労に向けての自己理解」という座学にも参加させていただきました。(栗原)



見学会の帰り道、宇都宮城址公園からオリオン通りまで散策し、ちょっぴり大人気分のカフェにも立ち寄りました。

就労移行支援とは

障害者総合支援法に定められた就労移行支援事業のひとつです。障がい等をお持ちで、一般企業に就職を目指している方に対し、就労に必要な知識や能力の向上を目的とした訓練、準備、就職活動支援 および 就職後の職場定着支援を行います。

対象者:「働きたい!」と思っている18歳以上、65歳未満の障がい等をお持ちの方

利用期間:24か月以内

サービス内容:事業所内や企業における作業訓練・実習
適性に合った職場探し
就職後の職場定着の支援 など

参加した中学生・高校生からの感想

- ・自分の使っている事業所以外を見学し、それぞれの良さがわかった。
- ・自分には早かったが、こういうところがあることを知ってよかった。
- ・先の見通しが立ち、安心できた。

■ 支援の流れ

問い合わせ ⇒ 施設見学 ⇒ 体験利用 ⇒ 受給者証申請 ⇒ 受給者証交付 ⇒ 利用契約

■ カリキュラム

- スキルアップトレーニング(個別訓練)
- 企業実践 グループワーク 軽作業
- パソコン訓練(数値入力、短文入力、データ入力、など)
- ビジネスマナー
- ベーシックトレーニング(軽作業訓練)
- 就職活動プログラム、面接、 など

■ 連絡先は以下、ネット検索で会社名を入力すればOK。ホームページから資料請求もできます。

障がいをお持ちのあなた 就職を支援します
ディンクル就職支援センター
お気軽にお問い合わせ下さい ☎ **0120-770-045**

障害福祉サービス 就労移行支援事業所
welbe ウェルビー株式会社
☎ **0120-655-773** (受付時間:9:00~18:00/日以外)

目次

就労移行支援事業所見学会	1
こんなときは・本を・読もう	2
Skype? LINE? ZOOM?	3
活動報告	3
こんな本はいかが・49	4

居場所のひとこま

この時期になると鳥のさえずりが聞こえる居場所。巣箱を作ってみました。合板でなく、むしろ野路板という安い杉板がよいとのこと。12cm幅のものをホームセンターで購入し作りました。カラスにこじ開けたりされないように頑丈に、ただし底部は水が抜けるようにというのがコツ。出入り口は直径3cmの丸穴を開けるドリル刃を使用しました。居場所の窓から見えます。シジュウカラさん、入ってくれるかな。(N)



◆◆◆ こんなききは・本を・読もう ◆◆◆

本屋さんに並んだ本の背表紙を眺めるだけでも楽しいものです。でもいまは、不要不急のお出かけは自粛。その代わりにっては何ですが、毎号4ページに掲載している「こんな本はいかが？その31~49」で紹介した「おすすめ」のリストを作ってみました。読書の参考にしていただければ幸いです。各行の頭にある数は「なんとなくのひろばの号番号」ー「こんな本の回番号」。なんにわホームページ→なんにわ通信→号数を選択→4ページを開くと閲覧できます。「こんな本・その30」以前の覧は「通信・第41号」の2~3ページに載っています。

- 41-31: 「あいつもともだち」 内田麟太郎・作 降矢なな・絵 (偕成社 2004)
 「ともだちや」 内田麟太郎・作 降矢なな・絵 (偕成社 1998)
 「ともだちおまじない」 内田麟太郎・作 降矢なな・絵 (偕成社 2006)
 「大人の友情」 河合隼雄・著 (朝日新聞社 2005)
- 42-32: 「風と共に去りぬ」 マーガレット・ミッチェル (荒このみ 訳) 岩波文庫 (全6巻)
- 43-33: 【アドラー心理学の本】
 「嫌われる勇氣」 岸見一郎 古賀史健・著 2015年 ダイヤモンド社
 「幸せになる勇氣」 岸見一郎 古賀史健・著 2016年 ダイヤモンド社
- 44-34: 「おじいちゃんのごくらくごくらく」 西本鶏介・作 長谷川義史・絵 (すずき出版 2006)
 「ぼく おばあちゃんの こに なってあげる」
 西本鶏介・作 渡辺さもじろう・絵 (すずき出版 1995)
 「ぎゅうぎゅうかぞく」 ねじめ正一・作 つちだのぶこ・絵 (すずき出版 2002)
 「ねえ ねえ」 内田麟太郎・作 長谷川義史・絵 (すずき出版 2004)
- 45-35: 「千一秒物語」 稲垣足穂 (新潮文庫)
- 46-36: 「自閉症の僕が跳びはねる理由1・2」 東田直樹・著 角川文庫 2016年
 「のげしとおひさま」 甲斐伸枝・作 福音館書店 2015年
- 47-37: 【児童文学作家・いとうみくさんの本】
 「かあちゃん取扱説明書」 童心社 2013年 (小学校中学年向き)
 「おねえちゃんって、ほーんとつらい！」 岩崎書店 2015年 (小学校低学年向き)
 「キナコ」 PHP研究所 2015年 (小学校低学年向き)
- 48-38: 「折りたく柴の記」 新井白石 訳: 桑原武夫 (中公クラシックス・中央公論新社)
- 49-39: 【発達障がいをもった絵本作家の本】
 「ありがとう、フォルカー先生」 パトリシア・ポラッコ 作・絵 岩崎書店 2001年
 「がらくた学級の奇跡」 パトリシア・ポラッコ 作・絵 小峰書店 2016年
 「てん」 ピーター・レイノルズ 作 あすなろ書房 2004年
 「つぼい」 ピーター・レイノルズ 文・絵 主婦の友社 2009年
 「そらのいろって」 ピーター・レイノルズ 文・絵 主婦の友社 2012年
- 50-40: 【オノマトペ絵本】
 「もこ もこもこ」 谷川俊太郎・作 元永定正・絵 文研出版 2004年
 「だっだあー」 ナムーラミチヨ・作 主婦の友社 2004年
 「がたごと なにかな？」 「びよんびよん なにかな？」
 高信男・作 あきやまただし・絵 すずき出版 2004年
 ほかに、とよたかずひこ/作・絵 ももんちゃん あそぼうシリーズ
 うららちゃんののりものえほんシリーズ
- 51-41: 「あなたの人生の物語」 テッド・チャン 浅倉久志・他訳 ハヤカワ文庫(SF1458) 2003年9月
- 52-42: 「スウェーデンの小学校社会科の教科書を読むー日本の大学生は何を感じたのかー」
 ヨーラン・スバネリッド著 鈴木賢志+鈴木ゼミ編訳 2016年 新評論
- 53-43: 「原子・原子核・原子力ー私が講義で伝えたかったことー」
 山本義隆 著 2015年 岩波書店
- 54-44: 【2017年芥川賞、2018年/2016年本屋大賞の作品】
 「おらおらでひとりいぐも」 若竹千佐子・著 河出書房新社 (2017年)
 「かがみの孤城」 辻村深月・著 ポプラ社 (2017年)
 「羊と鋼の森」 宮下奈都・著 文藝春秋 (2015年)
- 55-45: 「浮世の画家」 カズオ・イシグロ (飛田茂雄 訳) [新版] ハヤカワepi文庫(2019年)
- 56-46: 【ヨシタケシンスケさんの絵本】
 「それしか ないわけ ないでしょう」 白泉社 2018年
 「おしっこ ちょっぴり もれたろう」 PHP研究所 2018年
 「なつみは なんにでも なれる」 PHP研究所 2016年
 「つまんない つまんない」 白泉社 2017年
 「子ども・大人」 考える絵本6 文/野上暁+ひこ・田中 大月書店 2009年
- 57-47: 「三体」 著: 劉慈欣、監修: 立原透耶、訳: 大森望、光吉さくら、ワン・チャイ 早川書房 2019年
- 58-48: 「ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー」 著: プレイディみかこ 新潮社 2019年
- 59-49: 「とんがりモミの木の家 他5篇」 セアラ オーン ジュエット: 作 河島弘美: 訳 岩波文庫 2019年

四月四日付け下野新聞の第一面に「観光地は今こそ整備急げ」というデービッド・アトキンソンさん(論説委員)の意見が載っていた。『政府は「観光立国」をめざし、観光整備の補助金まで用意している。しかし、観光現場の整備が不十分のまま、情報発信には熱心というアンバランスがある。新型コロナウィルスの感染拡大で観光客が少ない今は、観光地の質を上げるための整備を行うチャンス』という主張である。一九世紀半ば「スイスを観光地として再発見し、観光業を開始したのはイギリス人」という話を聞いたことがある。アトキンソンさんは英国生まれ。観光についての鋭いセンスからの発言である。論の冒頭、「観光業の歴史を見れば、テロや内戦があつても、終息から半年以内に客は戻っている」とある。この冷静な見方は貴重であり、観光業に限らず他の

分野にも通じる。「この機会に整備を」と言われても、会議も自粛では何もできないと思うかもしれない。しかし手段はある。そのひとつは「読書」ではないか。近頃は情報発信手段が豊富にある。手軽に使えるし、多くの人が見ていると思えば力も入る。だが、その中身はインターネット検索や安易な思いつきに頼つてはいないだろうか。場当たり的な発想も時には必要かもしれないが、「質の高い発信内容」は先人の知恵や経験を学び、アイデアを付け加え再構成することから生まれる。読書はそこに書いてあることを覚えたり、ある考えを探したりする作業ではない。どこかに出かけたり、新しいことに目をみはるような体験、それがアトキンソンさんの言う「質の整備」につながるのだと思う。ちよつと強引な、「ステイ・ホーム時代」の読書のすすめである。(T)

- 1月31日(金) 通信「なんとなくのひろば・第58号」発行
- 2月4日(火) 就労移行支援事業(ディンクル、ウェルビー) 見学会
- 2月10日(月) 茶話会(第97回)
- 2月15・16日(土・日) 第15回 全国若者・ひきこもり協同実践交流会
- 2月22日(土) とちぎ教育ネットワークの会議
- 2月23日(日) ベリー会 学習会
- 2月28日(金) つくって食べよう(ホットケーキ)
- 2月28日(金) 3月の学校休校(肺炎コロナウィルス対策)に向けてのスタッフ会議
- 3月2日(月) ~ 利用登録者に限定して開所・相談業務は通常どおり
- 3月3日(火) 理事会(第94回)
- 3月9日(月) 茶話会(第98回)
- 3月17日(火) 上都賀教育事務所のスクールサポーター(2名) 来所
- 3月27日(金) つくって食べよう(焼きうどん)
- 3月28日(土) とちぎ教育ネットワークの会議
- 3月29日(日) ベリー会 月例会
- 3月25日(水) ~ 4月3日(金) 春休み(利用登録者に限定して開所)
- 4月6日(月) 2020年度・子どもの居場所開所
(手洗い・マスク励行、風邪症状や発熱に注意して実施)



つくって食べよう番外編
チョコを細かく刻んで...
生チョコレートケーキを作りました

こちらは2月に作ったホットケーキ
とても上手に焼けました



さくらそう関連の勉強会 (COVID-19 感染対策のため2月以降は中止)

- 2019年度相談支援専門員連絡会/日光市障害者自立支援協議会/県西圏域相談支援事業者等連絡会
- 研修受講 2019年12月13日(金) 医療的ケア児コーディネーター養成研修を修了
- 2020年 1月14日(火) 発達障害者相談支援サポーター養成研修を修了

Skype? / LINE? / ZOOM?

10数年も前のことだけれど、とある外国の研究所に行き工事現場のようなところで寝泊りしながら仕事をしたことがあった。そこは「Web発祥の地」でもあり、ネット環境はばっちり整っていて、ノートパソコンを持ち込み使用許可をもらえば、インターネットに接続できる。いまではあたりまえだが、なるほどこういうものかと感動した。周囲にはSkypeで通話している人たちが多く、いろんな言語が飛び交っていた。ネット接続があれば無料に近い価格で使え、長期に滞在する人は料金を気にせず家族とゆっくり話せる。重宝していたようだ。Skype-β版の公開は2003年という。ユーザが広がり始めた頃だったのだろう。

WikipediaによればLINEは「創業者の李海珍(イ・ヘジン)が、家族や親戚と連絡を取ろうとする東日本大震災被災者の映像を見て発案」という。始まってから10年経っていないのだ。最近では厚労省が「健康状態アンケート」に使うなど、みんなが使うネット環境の一部となっている。個人や家族間の便利な連絡道具として便利に使っている人が多いのではないだろうか。

そしてZoom。ネット会議など面倒そうで手を出さず気にならなかった。感染症の大流行がなければ、関心を持たないままだったかもしれない。「ミーティングにZoomで参加したい」とプログラマのSさんからの申し出でノートPCにインストールしてみたら、案外使える。はじめは画面に自分の顔が表示されているのが気になったりしたが、少しで慣れてしまう。居場所に通う子の学習サポートに使ってみようかと考えたりする。安全性が怪しいとの情報もあるので要調査である。LINEでもよいかもしれない。むむ、これまで文字コミュニケーションを旨としてきたけれど、脳がウィルスに侵されて考えが変わってしまったのか、ネット経由のコミュニケーションも「なんにわ」の課題だと思ふようになった。デスクトップPCで必要な「Webカメラ」、周辺の店では品切れ。やれやれ、ネットショップに注文してみようか。(手塚)

学校臨時休校中の居場所利用について

新型コロナウイルス肺炎感染対策のため日光市内の小中学校は休校となっています。居場所利用を登録または登録予定の子どもたちについては、以下のとおり受け入れることといたします。ご協力をお願いします。

- (1) 日光市内の小中学校臨時休校期間
- (2) 支援依頼のある小中学生について、
12時30分~16時30分まで居場所を開設します。
- (3) 学校は感染拡大防止を目的として休校となっています。期間中は自宅で過ごすのが適切と考えますが、支援中の本人に強い利用希望がある場合、相談の上、受け入れることにいたします。ただし、風邪の症状または発熱がみられる場合は見合わせていただくようお願いします。
- (4) 来所前は手洗いを行ってください。可能であればマスクの持参をお願いします。

「なんとなくのにわ」への相談は、いままでどおり受け付けています。電話またはメールでご連絡ください。

子育て・親育ちの茶話会

場所： 子どもの居場所(日光市平ヶ崎)

日時： 毎月第2月曜日(午前10時~12時)

次回の予定は電話でお問い合わせください。

参加費： 300円(お茶代)

同じ悩みを持つ親御さん同士、気持ちを許し合って、情報や悩みを分かち合いましょ。 「一人で悩まず、みんなで！」を合い言葉に。(Tel: 090-3227-7079)

特定非営利活動法人 なんとなくのにな通信

〒321-1261 栃木県日光市今市378

電話 090-3227-7079 / email: info@nantonakuno.net

ホームページ <http://www.nantonakuno.net/>



こんな本はいかが？

その49：とんがりモミの木の郷 他5篇

セアラ オン ジュエット: 作 河島弘美: 訳 岩波文庫 2019年

この本に出会うまで、作者について何も知りませんでした。訳者の解説によると、「アメリカの北東部、ニューイングランドを代表する女性作家の一人」、作品を発表した時期は19世紀末から20世紀はじめだそうです。最近までアメリカ文学には縁がなく、サマセット・モームやヘミングウェイをちょっと読んでくらい。好きな音楽はカントリー系なので、4、5年前からマーガレット・ミッチェルの「風と共に去りぬ」やら、フォークナーの「8月の光」などをぼつりぼつりと読んできました。最近ではアメリカが世界の覇者となる前、19世紀末から20世紀前半の小説が自分の興味に合っているようだと思っています。文庫本の半分以上を占める表題作と短編5篇、どれも小さな町や村に暮らす人たちの生活が描かれた作品です。

読みはじめてから、はて、カリフォルニアやテネシーなら、あのあたりで、あんな景色でイメージできるけれど、「メイン州」がどこにあるのかわからないことに気付きました。そこで、グーグルマップを使ってカンニング。アメリカ合衆国メイン州を検索してみたのです。「とんがりモミの木の郷」の舞台、ダネット・ランディングは架空の港町です。合衆国北東部(緯度は北海道くらい)に移動し、複雑な入江とたくさんの小島が点在するメイン州の海岸線をたどってみました。拡大すると、海辺に立ち並ぶこじんまりとした街並み。なるほどこの辺りがモデルかなと、しばらくネット散歩を楽しむ。離れて立つ家々には目立った垣根もなく、近所と適度な距離を保ちながらも、各々が静かな生活を送っている場所だなと思いました。作者の分身と思われる「わたし」が、ひと夏の滞在先に選んだその町で、葉草に通じた一人暮らしのミセス・トッドの家に滞在し、生活を共にし、その周囲に住む人たちに出会う。とても穏やかな時間の流れる物語です。

後半には5つの短編が収まっています。「シラサギ」は巧みな自然描写と少女の心の動きが印象的です。ジュエットの作品は「事件が起きない」と評されるようですが、主人公にとってはとてもとても大きな出来事が、夢のように美しく描かれています。「マーサの大事な人」は末尾にふさわしい、しみじみとした名家の令嬢とメイドのお話。屋敷の調度や庭の花々。内外の鮮やかな風景とともに40年の時の流れが一瞬で過ぎる。映像とは違った、小説ならではのSFXが楽しめる作品です。(手塚)

私たちの活動目的：

日光市とその周辺地区に居住する子どもおよび青少年等に対して、学習や自立のための支援活動と地域への啓発活動を行い、社会に出た後も継続性のある、支援と学びの場を作り出します。

私たちの事業：

- ① 子どもたちの自主性および自立性を尊重した居場所の提供および学びの場の運営
- ② 子どもたち一人ひとりに対応した、新たなカリキュラムや学習内容の開発
- ③ インターネットなどのIT環境を活用した学びの支援
- ④ 教育についての相談や情報提供活動
- ⑤ 学校外で育つ青少年の自立に関する相談および就労を支援する活動
- ⑥ 自然環境の中での学びを作り出し、自然環境保全の大切さを啓発する活動
- ⑦ 障がいの理解および啓発に関する企画運営事業
- ⑧ 第二種社会福祉事業の相談支援事業経営

会員について

正会員：53
賛助会員：17
団体会員：4
入会金なし

年会費(一口)
正会員 3,000円

賛助会員
個人 5,000円
団体 10,000円



私たちの活動は会費と寄付金でまかなわれています。会員継続、応援をよろしくお願いいたします。会員は新たな事業の提案、会の事業の運営などに直接かかわることができます。みなさまの積極的な参加をお願いします。

なんとなくのへや

若いころ周囲の雰囲気刺激され、フランスの小説家アルベール・カミュの「シーシュポスの神話」や戯曲「カリギュラ」などを読んだ時期がある。他にいくつかの作品にも触れたような気がするが、心に残っていない■2011年の大震災から数年後だったか、新聞の読書欄でこの作家の未完の遺稿「最初の人間」(新潮文庫)が紹介されていた。自動車事故で死去したカミュ。散乱した自動車部品の残骸中に残された原稿をカミュの娘が整理したという自伝的小説である。読んでみたら面白かったので、その勢いで代表作「ペスト」を開き、とくに医師リウーの奮闘に強い感銘を受けた。医師に焦点を当てて読んでしまったようだ■「ペスト」には医師以外にさまざまな考えを持つ人々が登場する。カミュの関心は疫病に立ち向かう英雄を描くことではなく、多様な登場人物に降りかかった不条理な状況をどう表現するかにあったのだろう。肺炎ウィルスが蔓延しているいま、自分だったらどの人物に共感できるか。もういちど読んでみようと思ふと本棚をさがしたけれど見当たらない。誰かに貸したままになっているのかもしれない■「緊急事態の」とか「前例のない」などという修飾語が付いた嵐が吹き荒れている。嵐が過ぎたころ、この世の中で「あたりまえ」と思われていたことがじわりと変わってしまうような不安がある。感染症も不条理だが人間社会を守るための手段も不条理に満ちている。むかし流行った「不条理文学」を読み直しながら家に引きこもる日々もそう悪くないように思えてくる。(T)